（第３種郵便物認可）　社会　5月14日（日曜日）　(20)

土曜閉庁

「まいったなぁ」

初日の表情

県と市町村の土曜閉庁が13日、スタートした。国の実施に続き、本県でも同日から一斉に実施されたもので、各市町村役場などは、日・祝日と同様の態勢をとった。しかし、各窓口では閉庁と知らず手続きに訪れた人や、電話などによる問い合わせも数多くあり、まだ徹底とは言い切れない〝初日〟だった。

来庁、電話相次ぐ

周知に時間かかりそう

【県庁】県庁守衛室前に「きょうは土曜閉庁です」の立て看板が掲げられ、各庁舎内には開庁、いつもの土曜日には四百人近いスポーツの国体選手団や観客が訪れる国際交流施設には、土曜閉庁を知らずに福田市、伊勢崎市、邑楽郡板倉町などから十八人が来庁。

同室では、いきどおりの声に備え待機していた四人の職員が対応し、手続きを済ませたが、「PR不足を痛感していた」と話していた。【県警本部・警察】日曜、祝日と同じ態勢をとった県警本部、各警察署でも、落とし物の問い合わせが、保険の関係などで、いつもの土曜日より多かったという。

また、前橋市元総社町の県警運転免許更新手続き、簡易講習の会場でも、通常の土曜日は午前中が十二人、午後が七人程度だったが、この日は午前中だけで二十八人、午後も七人と、ふだんの休日と変わらない数だった。

【前橋市】通常の当直態勢に加え、電話交換手二人と幹部職員が特別出勤、市民の問い合わせに対応した。【太田市】日曜勤務の職員八班半から市役所に待機、閉庁を通常の二人から三人に増やしたほか、大規模災害時職員課長をはじめ、市民課、保険年金課、納税課など、窓口業務に関する課の職員十四人が午前中に出てきた。

【高崎市】土曜閉庁に気づかなかったり、うっかり平常の土曜日のつもりで、という電話が市民から相次いで「午前十時ごろまではいつもと変わらない電話量でした」と驚き、免許証の更新で団塊運転者が、落とし物の問い合わせや、保険の関係などで、いつもの土曜日より多かったという。

それでも、土曜閉庁を知らずに来庁した市民は五十一六十人に上り、市庁舎玄関の掲示をみて納得したり、当直職員の説明を受けたりする光景もみられた。

免許証の更新で団塊運転者が、落とし物の問い合わせや